

やっぱりオニでしょ

先月号の「魚の名前あれこれ」で取り上げたオニカサゴ=イズカサゴ。名の由来は様々あるとして、アングラーにとってはイズカサゴと呼ばれてもピンときませんね。食べればオニ旨いし、毒トゲに刺されるとオニ痛いし、やっぱり「オニ」と呼びたい魚です。

カサゴの仲間というところが岩礁帯に生息し、岩根の潮のあたる場所で獲物を狙っているイメージです。特に標準和名オニカサゴは岩と同化する達人で、ダイバーでも発見するのが難しいほどです。ところがオニ(イズ)カサゴはちょっと違うようで、どうも砂地にいることが多いようです。秋谷ではアマダイ狙いでよく釣れます。およそ水深60~80mの砂泥底(いわゆるアマダイエリア)で、岩というより石(人の頭くらいの)の傍に鎮座していることが多いようです。筆者が見た限りでは2~3月の伊豆大島で、深海からのかけ上がり水深30~40mあたりの砂泥底で、石の傍でジッとしてました。まるで石になりきっているかの如く、近寄ってもピクリとも動きませんでした。大島の地形のせいなのか、それとも産卵期などに浅場が上がってくるのかは解りませんが、その場所には種類は違いますがアマダイの仲間もありました。アマダイのほとんどは砂底に穴を掘り、そこから潮に向かって半身を出してエサを待ち構えるイメージですが、オニカサゴも潜らないだけでエサを待つイメージは同じと思われます。違いといえば口の大きさと、サバの切り身とかイカの短冊とかけっこう大きなエサでも近くに認識すれば喰いついてくるはずなので、オニカサゴだけを釣りたければ、大きめの目立つエサがいいでしょう。

そしてオニカサゴは釣れた後が問題。そう、毒トゲです。背ビレ尻ビレだけではなく、エラ付近にもあるので気をつけてください。死んだふりが得意なので、絶対に不用意にさわらないこと。カサゴ類は水が無くてもかなりの間生きています。できればヒシはハサミで切った方がいいかも知れませんね。また小さいヤツほど捌きづらいので、刺される確率も上がります。冬春の味覚を代表する美味しい魚ですが、くれぐれも病院送りにならないように。



ジッとエサを待ちます

※釣果情報は裏面です

安全航行しましょう!!

- 始業点検(ガソリン・主機・補機・船体・アンカー)
- 常備品(人数分ライフジャケット・信号紅炎・携帯電話・救命浮環・オール・ラジオ)
- 湾内徐行・漁網避難航行・天候注意・水上バイク注意・釣糸注意

今月の保管施設

出艇数 令和3年1月16日~令和3年2月15日	50 艇
----------------------------	------

夜間係留数 令和3年1月16日~令和3年2月15日	5 艇
------------------------------	-----

保管場所空き状況 令和3年2月25日現在	現在満艇 空待ち3艇
-------------------------	---------------

今月の事故	接触等	0	件
	主エンジン停止	0	件
	ガス欠	0	件

秋スポ・トピックス

日々寒いですが、日差しの強さに春を感じるようになりました。空気が澄んで遠くまで見渡せるので、海上も気持ちがいいですね。秋谷からは伊豆稲取ほどまで見渡せますが、条件が良いと十国峠の展望台や東伊豆町の風車まで見えるんです。目のいい人は裸眼でわかると言うから驚きです。4月になると視界が落ちてくるので、船上から景色を堪能するなら今がチャンスです。でも景色に見とれて見張りを忘れないように。



これが見えたら視力2.0?

魚の名前あれこれ

釣れるとグーグー鳴くお馴染みのイシモチ、人気の釣魚です。しかし標準和名はニベ科の「シログチ」。和名「イシモチ」という魚は別にいるんです。テンジクダイ科の魚で「クロイシモチ」「キンセンイシモチ」「スジイシモチ」「ネンツツダイ」など多種。何故イシモチと呼ばれるのか。どちらも平衡感覚と聴覚に大切な耳石というカルシウムの塊を持つことから「石持ち」の名がついたそうなんです。味とボリュームは釣魚名イシモチに軍配。



釣魚名イシモチ



本家の▶
ネンツツダイ

指定管理者からのお知らせ

今一度、ご確認をお願いいたします

こんにちは、秋谷船舶保管施設等指定管理者の(株)昭和です。年度末で何かとお忙しいと存じますが、愛艇の保管継続手続きはお済みでしょうか?すでにすべてのご利用者に申請書をお送りしておりますので、今一度ご確認の上、船舶事務所までご提出をお願いいたします。「書類が見当たらない」、「不明な点がある」、という方はお電話下さい。またシーズンインを前に一度、艇の点検日を設けてください。新シーズンも安全で快適な海の休日をお過ごし頂けますようお願いしております。

今月の釣果情報

今月もアカい魚が充実しました。スーパーというよりデパ地下で売ってそんな魚ばかりです。まさに釣人の特権ってカンジですね。アカムツは刺身のどんぶりメシで召上がったそうです。2月に入ってサワラが賑わいをみせました。秋谷清四郎丸さんは連日多数のゲストをご案内されてました。我が web 管理人も5キロモノを複数ゲット、寒かったのにアツかったそうです。



オニカサゴはトゲ注意



まっ赤なチカメキントキ



キロ超えのアカムツ



今夜はご馳走だー



でっかいサワラ

小田和湾

3月休日の潮回り

7日(日)	9:06 満潮(125)	17:29 干潮(48)	小潮
14日(日)	11:16 干潮(51)	17:12 満潮(156)	大潮
20日(土)	7:45 満潮(135)	14:59 干潮(40)	小潮
21日(日)	8:12 満潮(129)	16:13 干潮(45)	小潮
28日(日)	10:49 干潮(46)	16:49 満潮(154)	大潮

天干満の差が大きい大潮の日が多いですね。昼頃はけっこう潮が動きそうです。14日と28日は出港直後が狙い目かも知れません。あらかじめポイントを絞っておきましょう。メバルもいいですし、そろそろマダイの活性が上がる時期ですね。

トラブル回避 ワンポイント

北風が強い時の着岸は難しいですが、意外にやっかいなのが離岸です。いつもどおりに後進してターン・・・ところが風に押されて流されて、気がつけば漁船エリアに、なんてこともありえます。北風の時は背側に風を受ける形になります。キャビンの付いている艇ほど風の影響を受けるので、艇に応じた操船が必要になります。では具体的にどうすればいいのか。船はあるていどスロットルを開けないと駆動力が効かず向きが変わりません。ということは、スロットルを開けられる位置まで後進した方が良いということですね。早く向きを変えたいという気持ちからすぐに舵を切ってしまうがちですが、そこは少々ガマンして港内中央あたりまで後進しましょう。北東風ならば海側に、北西風ならば陸側に舵を切り、なるべく横からの風を最小限にとどめることがポイントです。また離岸時に船外機(推進機)がまっすぐになっていることを確認してから発進しましょう。係留艇のロープをほどく際は、風下側からほどくのはいうまでもありません。風上側からほどくと船はあっけなく横を向いてしまいます。「そんなこと常識だろう・・・」とお思いかもしれませんが、実際に失敗する艇も少なくないので、あらためて認識してみてください。



BANへのご加入はお済みでしょうか?

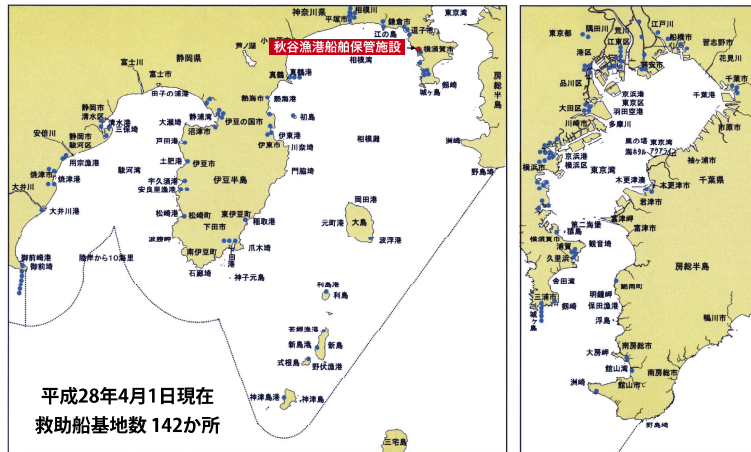
日頃は秋谷漁港船舶保管施設等をご利用いただき誠にありがとうございます。

さて本施設では、募集要項記載ならびに許可の主旨の両面から、ご利用者様が出艇時になんらかのトラブルに遭遇した場合でも救助する術がございません。

つきましては、ご利用者の皆様に対しまして、BAN (Boat Assistant Network)へご加入するようお願い申し上げます。既にご加入されていらっしゃる皆様もおられることと思いますが、万一のトラブルに対して「24時間365日」の対応と「最寄の港への無料曳航サービス」が受けられるもので、皆様の安全なご利用をサポートするものでもあります。

昨今、各地マリナーでも加入を義務付ける向きの動きもありますので、必ずご加入いただきますようお願い申し上げます。

BAN 関東エリア 救助船基地図



BAN 加入者特典

- ① 所属マリナーが近場の場合には、所属マリナーまでの無料曳航サービスが受けられます。
- ② 所属マリナーから遠隔地の場合でも、最寄りの安全な港まで無料曳航サービスが受けられます。
- ③ 所属マリナーが休日の場合や、夜間の場合でも上記サービスが受けられます。

フリーダイヤル コールアキヤに

詳しくは、秋谷船舶保管施設 ☎ 0120-560982 までお問い合わせください。